

時間価値原単位 (平成15年価格)の算出方法について

時間価値原単位 = (.人の機会費用)+ (.車両の機会費用)+ (.貨物の機会費用)
 .人の機会費用 = ドライバーの機会費用 (× 1人) + 同乗者 (乗客)の機会費用 × 平均乗車 (乗客)人員

車種		.人の機会費用				.車両の機会費用	.貨物の機会費用	
		(A) 1人当たり機会費用						(B) 平均乗車人員 (平均乗客人員)
		ドライバー		同乗者 (乗客)				
		トリップ目的	算出方法	トリップ目的	算出方法			
乗用車	自家用自動車	業務	単位時間当たり労働費用 = (賃金 + フリッジベネフィット) ÷ 労働時間)	業務	左記と同様	業務目的・非業務目的別の平均乗車人員を設定 レンタカー料金より設定		
		非業務	単位時間当たり賃金 = 賃金 ÷ 労働時間	非業務	左記と同様。ただし14歳以下の同乗者については時間価値をゼロとして補正 (単位時間当たり賃金 × (15歳以上人口 ÷ 総人口))			
	営業用自動車 (タクシー)	業務	1人のドライバーが1分労働する場合の現業部分に発生する人件費	業務 非業務	自家用自動車と同じ値を適用		営業用乗用車の平均乗客人員より設定 レンタカー料金より設定 (H11 :リース料金)	
バス	営業用バス (乗合バス)	業務	営業用自動車と同様の算出方法	業務	自家用自動車と同じ値を適用	乗合バスの平均乗客人員とトリップ目的構成比より設定 レンタカー料金より設定 (H11 :リース料金)		
				非業務				
	営業用バス (貸切バス)	業務	営業用自動車と同様の算出方法	業務	自家用自動車と同じ値を適用	貸切バスの平均乗客人員とトリップ目的構成比より設定 レンタカー料金より設定		
				非業務				
	自家用バス	業務・非業務	自家用乗用車ドライバーの時間価値を、自家用バスの目的別走行台キロにより加重平均	業務	自家用自動車と同じ値を適用	自家用バスの平均乗客人員とトリップ目的構成比より設定		
				非業務				
貨物車	営業用貨物車	業務	営業用自動車と同様の算出方法	業務	左記と同様	営業用貨物車の平均乗車人員より設定 レンタカー料金より設定 (H11 :リース料金)	1台当たりの輸送貨物の価値額 × 利子率	
		業務 非業務	自家用乗用車と同じ値を適用	業務 非業務	自家用自動車と同じ値を適用	業務目的・非業務目的別の平均乗車人員を設定 レンタカー料金より設定	1台当たりの輸送貨物の価値額 × 利子率	

網掛けはH15価格の新規追加項目

走行経費原単位 (平成 15年価格) の算出方法について

走行経費原単位 = (燃料費) + (油脂費) + (タイヤ・チューブ費) + (整備費) + (車両償却費)

項 目	考 え 方	算 出 式	備 考
燃料費	燃料消費量推計式（走行キロ当たりの燃料消費量）に、税引後の燃料費単価を乗じて算出。 8車種ごと（4車種×ガソリン・軽油）に算出した後、燃料別の走行台キロ比率で加重平均して、4車種に統合。	燃料費（円/km） = 燃料消費量推計式(cc/km) × 燃料費単価(税引後)(円/cc)	4車種ごとに算出。 (走行速度の関数)
油脂費	油脂費（エンジンオイル等）は、燃料費に比例すると仮定。 会計データから、走行キロ当たり燃料費に対する油脂費の割合（油脂費係数）を算出し、の燃料費原単位設定式に乗じて算出。	油脂費（円/km） = 車種別燃料費原単位設定式() (円/km) × 油脂費係数 ¹	
タイヤ・チューブ費	まず、平均的な路面状況におけるタイヤ・チューブ費（タイヤ・チューブ費絶対額）を算出。 次に、速度や路面状況、ブレーキ頻度等によるタイヤ等の寿命の変化を示す補正係数（タイヤ・チューブ寿命係数）を作成し、絶対額を寿命係数で除して、タイヤ・チューブ費を算出。	タイヤ・チューブ費（円/km） = $\frac{\text{タイヤ・チューブ費絶対額(円/km)}}{\text{タイヤ・チューブ寿命係数}^2}$ 2：寿命係数は、路面等の条件がよいほど、つまりタイヤ等の寿命が長くなるほど大きくなるように設定される。これにより、路面等の条件がよいほど、最終的なタイヤ・チューブ費は小さくなる。	4車種、道路種別ごとに算出 (走行速度の関数)
整備費	路面状況等の影響を受けない「定期点検」分と影響を受ける「定期点検以外」分に分割。 定期点検以外の部分は、路面状況等の影響を反映するため、タイヤ・チューブ寿命係数を基にした補正係数で除する。	整備費（円/km） = 定期点検整備費 + $\frac{\text{定期点検以外整備費}}{\text{補正係数}^3}$ 3：補正係数は、タイヤ・チューブ寿命係数と同様、路面状況等がよいほど大きくなり、結果的に整備費が小さくなるようになっている。	
車両償却費	整備費と同様、路面状況等の影響を反映するため、平均的な車両償却費を と同様の補正係数で除して算出。	車両償却費（円/km） = $\frac{\text{平均的な車両償却費(円/km)}}{\text{補正係数}}$	